

長野と薬師寺の絆を未来に継承しましょう

じきどうきだん

薬師寺食堂基壇に埋納される「瓦筒（かわらけ）」奉納のお願い※学生対象

昭和 27 年、長野県内各学校より薬師寺国宝東塔の修理に際し 345 枚の瓦が寄進されました。一県からここまでの規模のご寄進は他に例がなく、当時の社会情勢を思うと、信濃教育会の文化財保護への情熱と教育の姿勢に敬服と感謝で一杯でございます。

その東塔が平成の大修理を迎え、再び長野県内の学校より 60 年前の寄進慶事に寄せてご寄進とのお申し出も頂戴しております。しかし、文化庁からは国宝修理に対する直接的なご協力を頂くことは叶わず、まことに残念でなりません。

薬師寺では昭和 42 年より戦国時代に焼失した白鳳伽藍の復興に取り組んでおり、本年 3 月 21 日に伽藍の主要建物の一つ「食堂(じきどう)」の起工式を行います。これに際し、食堂に埋納される「瓦筒(かわらけ)」に、平成の長野の小中高生の思いを東塔の瓦と同じように残して頂ければ、と願う次第です。

学問を修める僧侶を「^{がくしょう}学生」と呼び、その姿は今の「^{がくせい}学生」が学業に励む姿に通じています。その学生が食事や集会を開いていたのが食堂です。古来よりお供えの器や食器に用いられてきた瓦筒は、食堂の発掘調査の際にも数多く出土しています。

今回の為に新しく作られた瓦筒に生徒の皆様のお名前と夢や目標を書いて頂き、食堂の基壇(きだん、基礎部分)に埋納して薬師寺の続く限り祀らせて頂きます。

60 年前に寄せて頂きました長野と薬師寺の絆を我々が引き継ぎ、未来に継承していく復興事業にご賛同頂き、現代の若者への教育に役立ててくださいますことをお願い申し上げます。

合 掌

平成 27 年 3 月 法相宗大本山 薬師寺

瓦筒（かわらけ）奉納料 1 枚 500 円

- ・事前にお申し出のあった学校に、人数分の瓦筒をお送りします。
- ・墨書または濃い鉛筆などで記入後、修学旅行などで薬師寺に来られた際にお納めください。(郵送可)
- ・お納め頂ける期間は、基礎部分が完成する平成 28 年夏(予定)までです。

担当 薬師寺執事 松久保^{かしゅう}伽秀

伽藍主事 村上^{じょううん}定運

TEL : 0742-33-6001

FAX : 0742-33-6004

かわらけへの記入例 (直径約 11 センチ)

※中央は口語体や絵でも構いません。

